

第6．進路指導の重点

(大東)

生徒自身が、自己の将来について明確な展望を持ち、適正な進路選択の能力を身につけるためには、学年別の目標を設定し、綿密で計画的な進路指導を行わなければならない。また、進路相談などを通して、生徒一人ひとりの適性を十分に把握し、それぞれに応じたきめ細かな進路指導を心がけねばならない。しかも、効果的な進路指導を行うためには、積極的に情報を収集し精選して、多岐にわたる生徒の進路希望に対応していく必要がある。現在、進路目標実現のため、7限目等には教科別に対策として自由選択科目や講習を取り入れている。

特に、実際の進学および就職の選考に際しては、公正・公平な選考が行われるよう十分な配慮と指導を行うことが大切である。また、問題事象が生じた時には、迅速・適切な措置が取れるよう、校内の指導体制を整えるように努める。

(緑風冠)

全職員の共通理解の下、生徒の学力を最大限に伸ばし、一人一人の生徒が適性・能力・希望に応じた学習を深め、進路目標を実現できるような、綿密で計画的な進路指導を行わねばならない。「普通科総合選択制」の学校の利点である進路希望に対応したエリア選択や科目選択ができるようにするために学習指導と連携し、生徒一人一人の基礎学力の充実と進路実現の力を育む学校になるように努める。そのための発展的な学習としての、希望者7限選択科目、土曜セミナー等を積極的に生徒に受講させるように努める。さらに、自学自習を支援するため土曜日の図書室を適宜開放している。

1. 学年との連携

- ・「総合的な学習の時間」の企画立案では、進路希望や興味・関心に応じた「エリア」選択が適切にできるように、学年との連携を深める。
- ・「進路通信」を発行し、進路意識の喚起と情報提供に努める。

2. 進学指導

- ・PTA主催の外部模試の校内実施により、全国レベルでの実力を知り、進学指導に活用する。
- ・進学に資する企画に協力する。

3. その他

- ・高大連携の推進を図る。

学年別指導目標

- 1 年： 高校生としての自覚をもたせ、高校生活の意義を考えさせる。また、自己の性格・特性を分析し、職業に対する適性を見出させるとともに、将来の進路についての関心を高める。一方、適正な進路選択の基礎となるものは、学習への積極的な取り組みであることを理解させる。（緑風冠）
- 2 年： 社会と自己とのかかわりについて考えさせるとともに、自己の進路選択を確かなものにさせる。そのためにも、上級学校の種類、先輩の進路状況などを知り、進路についての知識量を増やすことによって、将来の進路を身近なものとして捉えさせ、より具体的な進路設計を行わせる。（緑風冠）
- 3 年： これまでの進路学習をもとに、学級担任や進路指導係との進路相談によって、適正な進路を設定させる。そのために必要な資料を十分に用意し、ホームルーム活動のテーマとしても取り上げ、より積極的に取り組ませる。進路設定の次には、自己の目標を実現させるために、7限目自由選択科目のほか、分野別進路ゼミ（看護・就職等）に参加させ、さらに一層の努力をさせる。あわせて、卒業後の生活により良く適応できる能力を身につけさせる。（大東）